

第1期志津川高校 魅力化構想(案)

- 概要版 -

南三陸町の未来と志津川高校の魅力化

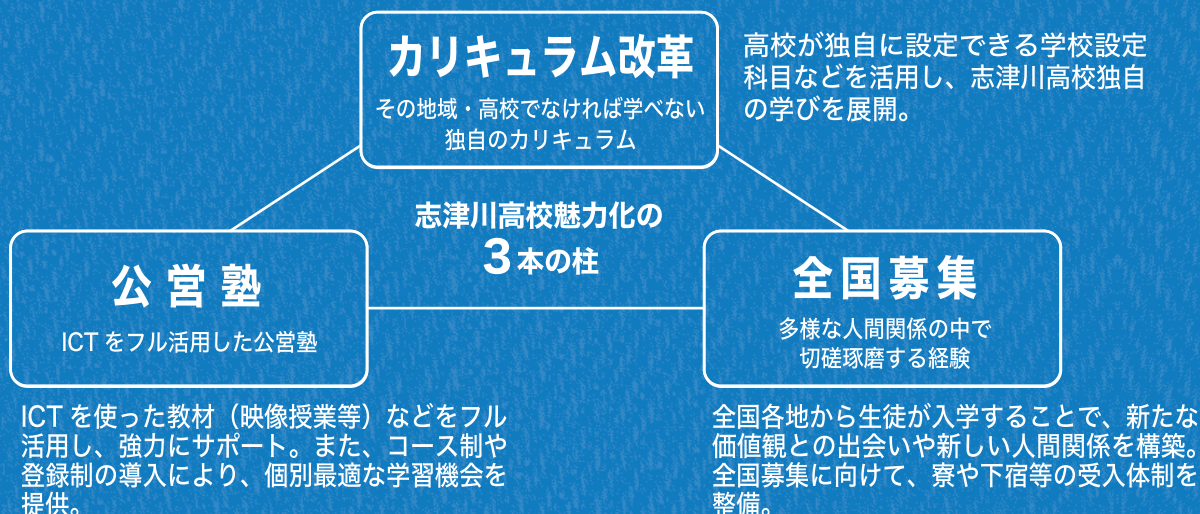
南三陸町の人材育成に大きな貢献を果たしてきた志津川高校がなくなれば、全ての生徒が遠方の高校で学ぶことになり、生徒・保護者の時間的・経済的負担が増えます。生徒とともに世帯ごと転出していく家庭も増加し、町内の人口減少に更なる拍車がかかります。

志津川高校の存続は、南三陸町の未来に直結しています。

しかしながら、同校の入学者は長らく減少傾向であり、このままでは高校の存続は困難な状況が予想されます。

この状況を打開すべく、「第1期志津川高校魅力化構想」では高校生が「地域全体が学校」として学ぶことで、町への愛郷心を持ち、卒業後、町外に出ても将来的に町に戻り、町を輝かせてくれるようなそんな『人財』を志津川高校で地域一丸となって育てていきたいと考えました。

そのために、以下の取組みを行い、町内だけではなく、県内外からも積極的に生徒を受け入れることを目指します。



01

自己実現力を伸ばす

(施策1) 生徒の特性に合わせた学ぶ環境の充実

- 生徒の特性に合わせた学ぶ環境の充実
 - ー 少人数個別指導の充実
 - ー 1人1台タブレット学習の推進
- 校外での学びの機会の提供（公営塾）
 - ー 登録制、コース制の導入
 - ー 予備校との連携

(施策2) 活躍を表現できる多様な場と機会の充実

- 小中学校と連携した学習の推進
 - ー 地域連携学習プログラムの充実
- 部活動などの対外活動の支援や外部指導者の強化
 - ー 女子硬式野球部の発足
 - ー 専門指導者や講師の招聘

02

コミュニケーション力を伸ばす

(施策3) 伝える力・聴く力を養うコミュニケーション機会の充実

- コミュニケーション力の向上のための実践型教育の推進
 - ー 対外的なプレゼンテーション機会の充実
 - ー 実践的なインターンシップの推進

(施策4) 目標に向かってチームで協力し合う活動の充実

- 生徒主体の教育活動の推進
 - ー 地域系活動・少人数クラブの推進
- 地域課題研究などプロジェクト型学習の推進
 - ー 「地域学（仮称）」〈1年生〉
 - ー 「地域探求学（仮称）」〈2年生〉

03

異文化理解力を伸ばす

(施策5) 地域資源の活用や多世代交流の推進

- 専門学校、大学と連携した地域資源活用事業の推進
 - ー 専門学校、大学連携の推進
- 高校生の活動をサポートする人材ネットワークの構築
 - ー 高校生の活動を支援する地域の応援組織の設立

(施策6) 新たな価値観を受け入れる多文化共生の推進

- 地域留学および海外からの留学生の受け入れ・交流・派遣の推進
 - ー 海外の高校との交流事業
 - ー 留学生派遣制度
- 寮の整備等の受入体制の強化
 - ー 寮の整備についての検討・推進
- 寮の魅力化と受入体制の充実
 - ー ホストファミリー（地域ふれあい家族）の充実

04

課題解決力を伸ばす

(施策7) 自分の夢に向かって取り組む場と機会の提供

- 生徒が主体的にプロジェクトを実行する
 - 「マイプロジェクト“マイプロ”」の推進
 - ー 「マイプロ」の実践

(施策8) 社会を変える力を生み出す取り組みの推進

- 生徒が主体となる学校運営の推進
 - ー 生徒による高校魅力化事業の推進
 - (例) 志津川高校制服魅力化プロジェクト

地域起業家精神を
兼ね備えた人財

育てたい生徒像

未来を担う人財を地域で育てる。

本構想の実現には、地域が一丸となり、町民の皆さまとともに進めていく必要があります。

〈現状値から推計した志津川高校入学者数〉

	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
連携2中学校卒業生数 (中3生徒数)	106人	103人	100人	98人	76人
連携中からの進学率 (直近5年間平均)	57.5%				
町内から志津川高校への進学者数	61人	59人	58人	56人	44人
他地区から志津川高校への進学者数 (直近5年間平均)	9人				
志津川高校入学者推計値	70人	68人	67人	65人	53人
定員120人に対する充足率	58.3%	56.7%	55.8%	54.2%	44.2%

校名・学科・コース編成について

(1) 校名

設立100周年となる令和6年度に校名の変更を検討します。

(2) 学科・定員数

- ① 学科については、現行の普通科・情報ビジネス科の2学科を踏襲し、普通科については2コースを新設、情報ビジネス科はコース編成を行わず、特色のある教育活動を展開していく。
- ② 定員数については、普通科2学級(80名)、情報ビジネス科1学級(40名)の現行維持を目指す。
- ③ 全国募集については、令和4年度から実施することを目指し、寮等の環境整備については継続して検討を進めていく。また、県外生徒の募集定員等については、宮城県教育委員会とも協議し、適正な募集定員を決定する。

○現行の学科・類型編成

普通科 2学級(80名)	教養系 文理系
情報ビジネス科 1学級(40名)	情報ビジネス系 会計ビジネス系

●新たな学科・コース編成(案)

普通科 2学級(80名)	地域創造コース 特別進学コース
情報ビジネス科 1学級(40名)	コース編成なし

普通科 地域創造コース

1年次に週3時間行う「地域学(仮称)」と2年次に週2時間行う「地域探求学(仮称)」は南三陸町そのものを教材にした学校設定科目。生徒の興味に応じてプロジェクトチームを組み、地域内外の優れた人材の協力を得ながら地域の魅力や課題を探究し、解決策を立案。地域で実践し、評価・検証・改善を行っていく授業。コミュニケーション能力や課題発見解決力などを身につけ、自身と地域や社会のつながりを学んでいく。

普通科 特別進学コース

「志津川高校に進学すると、学力が伸びず大学進学に不利」という「認識」を払拭し、志津川高校であっても学力が伸び、町外に出なくても、国公立大学や難関私立大学などへの進学希望を実現できる教育環境づくりを進める。そこで、今まで弱みだと見られてきた「小規模」ということを、一人ひとりに手厚い指導が可能な少人数教育という強みと捉え、個別指導や少人数指導で国公立大学や難関私立大学への進学を目指す「特別進学コース」を開校。

情報ビジネス科

情報教育とビジネス教育を先進的に融合させることも目指す。これからの新産業創造を担い、起業精神に溢れ、高度な専門性を備えた国内外で活躍する人材の育成を行う。県内外の大学や産業界と連携し、探究型学習を通して「考える力」を育み、高大7年間を見据えた新しいタイプの学科づくりを目指す。連携大学の協力による語学研修、国際理解教育の充実も図る。「英語」「情報」「会計」等の各分野のライセンスを複数取得し、連携大学の特別枠や推薦入学に繋げる。

持続可能な志津川高校魅力化の推進

- 生徒募集と情報発信の強化 ホームページなどによる情報発信の強化、学校説明会・見学ツアー、オープンハイスクールの充実
- 寮の整備等の受入体制の強化 寮の整備や下宿など受入体制の充実
- 魅力化構想の推進体制の充実 高校、町、コーディネーター(仮称)などの役割分担を明確にし、効果的な推進体制を構築

■問い合わせ・連絡先

南三陸町(企画課地方創生・官民連携推進室)
〒986-0725 宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田101番地

本構想案の策定にあたり、高校、中学校、PTA、民間事業者、行政で組織する「南三陸町高校魅力化協議会」を立ち上げ、計6回にわたり、検討・立案をするとともに、生徒・保護者へのアンケート調査を行い、現状分析に基づく、有効な施策をまとめてきました。